

消 化 器

科目責任者 入 澤 篤 志
 学年・学期 3 学年・1 学期

I. 前 文

消化器の講義で取り扱う内容は口腔・食道・胃・小腸・大腸・直腸・肛門の消化器に加えて、肝臓・胆嚢・胆道・膵臓・腹膜の諸臓器が含まれる。この領域で、主として疾患の病態・診断・治療についての内容となるが、これらの理解に必要な最小限の解剖・生理等の内容と病理学各論実習も含まれる。

II. 担当科（教授）

| | |
|----------------|-----------|
| 内科学（消化器） | （入 澤 篤 志） |
| 放射線医学 | （楫 靖） |
| 第一外科学 | （小 嶋 一 幸） |
| 第二外科学 | （窪 田 敬 一） |
| 口腔外科学 | （川 又 均） |
| 病理診断学 | （石 田 和 之） |
| 埼玉医療センター 消化器内科 | （玉 野 正 也） |

III. 一般学習目標

基礎で習った知識を前提に、概括的な疾患の構造、各疾患の病態・診断・治療について理解し、Clinical Clerkshipに対応できる十分な知識を得ることを目標とする。

IV. 学修の到達目標

各臓器の基本的な構造および機能、主要疾患における症候・病態・診断（鑑別診断も含む）・治療について理解する。以上の事柄を実際の臨床に応用しうる総合的な理解。

V. 授業計画及び方法

| 回数 | 月 | 日 | 曜日 | 時限 | 講 義 テ ー マ | 担 当 者 | |
|-----|---|---|----|----|-----------|-----------------|----------------------|
| 各 I | 1 | 4 | 6 | 月 | 2 | 肝疾患総論 | 内科学（消化器） 飯 島 誠 |
| | 2 | | 6 | 月 | 3 | 肝の画像診断（1） | 放射線医学 塩 山 靖 和 |
| | 3 | | 6 | 月 | 4 | 肝の病理 | 病 理 診 断 学 石 田 和 之 |
| | 4 | | 8 | 水 | 4 | 胆道系悪性疾患の外科治療（1） | 第 二 外 科 学 青 木 琢 |
| | 5 | | 8 | 水 | 5 | 胆道系悪性疾患の外科治療（2） | 第 二 外 科 学 青 木 琢 |
| | 6 | | 9 | 木 | 2 | ウイルス肝炎Ⅱ．慢性肝炎 | 内科学（消化器） 眞 島 雄 一 |
| | 7 | | 9 | 木 | 3 | ウイルス肝炎Ⅲ．肝硬変 | 内科学（消化器） 眞 島 雄 一 |
| | 8 | | 13 | 月 | 2 | 肝腫瘍 | 内科学（消化器） 小 池 健 郎 |
| | 9 | | 13 | 月 | 3 | 門脈圧亢進症 | 内科学（消化器） 飯 島 誠 |

三 学 年

| 回数 | 月 | 日 | 曜日 | 時限 | 講 義 テ ー マ | 担 当 者 | |
|--------|----|---|----|----|-----------|---------------------------|----------------------|
| 各 I | 10 | 4 | 13 | 月 | 4 | 胆道系良性疾患の外科治療 | 第二外科学 森 昭 三 |
| | 11 | | 14 | 火 | 2 | 胆道系の病理 | 病理診断学 石 田 和 之 |
| | 12 | | 14 | 火 | 3 | 良性肝疾患の外科治療 | 第二外科学 磯 幸 博 |
| | 13 | | 15 | 水 | 5 | 炎症性腸疾患 (1) ベーチェット病, 腸結核など | 内科学 (消化器) 富 永 圭 一 |
| | 14 | | 16 | 木 | 1 | 胆・膵疾患総論 | 内科学 (消化器) 入 澤 篤 志 |
| | 15 | | 16 | 木 | 2 | 胆・膵の画像診断 (2) | 放射線医学 塩 山 靖 和 |
| | 16 | | 16 | 木 | 3 | ウイルス肝炎 I. 急性肝炎, 劇症肝炎 | 内科学 (消化器) 有 阪 高 洋 |
| | 17 | | 17 | 金 | 4 | 胆道系良性疾患 | 内科学 (消化器) 土 田 幸 平 |
| | 18 | | 20 | 月 | 1 | 薬物性肝障害, 感染症肝疾患, 体質性黄疸 | 埼玉・消化器内科 玉 野 正 也 |
| | 19 | | 20 | 月 | 2 | 自己免疫性肝疾患 | 埼玉・消化器内科 玉 野 正 也 |
| 各 I | 20 | | 20 | 月 | 3 | 膵疾患の病理 | 病理診断学 石 田 和 之 |
| | 21 | | 21 | 火 | 4 | 大腸腫瘍 | 内科学 (消化器) 富 永 圭 一 |
| | 22 | | 21 | 火 | 6 | 代謝性肝疾患, アルコール性肝障害 | 内科学 (消化器) 有 阪 高 洋 |
| | 23 | | 22 | 水 | 1 | 胃の構造および機能 | 内科学 (消化器) 知 花 洋 子 |
| | 24 | | 22 | 水 | 2 | 悪性膵疾患の外科治療 (1) | 第二外科学 青 木 琢 |
| | 25 | | 22 | 水 | 3 | 悪性膵疾患の外科治療 (2) | 第二外科学 青 木 琢 |
| | 26 | | 27 | 月 | 4 | 急性膵炎 | 内科学 (消化器) 入 澤 篤 志 |
| | 27 | | 27 | 月 | 5 | 慢性膵炎 | 内科学 (消化器) 入 澤 篤 志 |
| | 28 | | 27 | 月 | 6 | 良性膵疾患の外科治療 | 第二外科学 磯 幸 博 |
| | 29 | | 30 | 木 | 1 | 肝・胆膵患者に対する移植治療 | 第二外科学 窪 田 敬 一 |
| 実 実 | 30 | | 30 | 木 | 2 | 病理実習 (1) 肝の病理 | 病理診断学 石 田 和 之 |
| | 31 | | 30 | 木 | 3 | 病理実習 (2) 胆膵の病理 | 病理診断学 石 田 和 之 |
| 各 I | 32 | 5 | 7 | 木 | 1 | 消化管疾患総論 | 内科学 (消化器) 郷 田 憲 一 |
| | 33 | | 7 | 木 | 2 | 口腔: 構造・機能, 歯科疾患, 口腔ケア | 口腔外科学 川 又 均 |
| | 34 | | 7 | 木 | 3 | 食道疾患の病理 | 病理診断学 黒 田 一 |
| | 35 | | 12 | 火 | 2 | 食道悪性疾患 | 内科学 (消化器) 郷 田 憲 一 |
| | 36 | | 15 | 金 | 2 | 胃・十二指腸疾患の外科治療 | 第一外科学 小 嶋 一 幸 |

| 回数 | 月 | 日 | 曜日 | 時限 | 講 義 テ ー マ | 担 当 者 |
|-----|---|----|----|----|------------------------|---------------------|
| | 5 | 15 | 金 | 3 | 消化器内視鏡による診断および治療 | 内科学(消化器) 田 尻 久 雄 |
| | | 18 | 月 | 4 | 痔腫瘍 | 内科学(消化器) 佐 藤 愛 |
| 各 I | | 19 | 火 | 1 | 胃疾患の病理 | 病理診断学 石 田 和 之 |
| | | 19 | 火 | 2 | 胃十二指腸潰瘍, 薬剤性消化管障害 | 内科学(消化器) 入 澤 篤 志 |
| | | 19 | 火 | 3 | 胃腫瘍 | 内科学(消化器) 郷 田 憲 一 |
| | | 21 | 木 | 1 | 食道疾患の外科治療 | 第一外科学 中 島 政 信 |
| 実 | | 21 | 木 | 2 | 病理実習(3) 食道 | 病理診断学 黒 田 一 |
| 実 | | 21 | 木 | 3 | 病理実習(4) 胃良性・悪性疾患 | 病理診断学 石 田 和 之 |
| | | 21 | 木 | 6 | 十二指腸・小腸疾患の外科治療 | 第一外科学 森 田 信 司 |
| | | 22 | 金 | 4 | 食道良性疾患 | 内科学(消化器) 渡 邊 菜穂美 |
| 各 I | | 25 | 月 | 1 | 腸疾患の病理 | 病理診断学 黒 田 一 |
| | | 25 | 月 | 2 | 小腸疾患(イレウス除く) | 内科学(消化器) 前 田 光 徳 |
| | | 29 | 金 | 6 | 大腸・肛門の良性疾患の外科治療 | 第一外科学 山 口 悟 |
| | 6 | 2 | 火 | 4 | 大腸の良性疾患(イレウス除く) | 内科学(消化器) 前 田 光 徳 |
| | | 2 | 火 | 5 | 肝疾患の外科治療(1) | 第二外科学 窪 田 敬 一 |
| | | 2 | 火 | 6 | 肝疾患の外科治療(2) | 第二外科学 窪 田 敬 一 |
| | | 9 | 火 | 4 | 炎症性腸疾患(2) 潰瘍性大腸炎 | 内科学(消化器) 増 山 仁 徳 |
| | | 9 | 火 | 5 | 炎症性腸疾患(3) クローン病 | 内科学(消化器) 増 山 仁 徳 |
| | | 15 | 月 | 1 | 炎症性腸疾患の外科治療 | 第一外科学 尾 形 英 生 |
| | | 15 | 月 | 3 | 大腸・直腸の悪性疾患および外科治療(1) | 第二外科学 石 塚 満 |
| | | 16 | 火 | 1 | 大腸・直腸の悪性疾患および外科治療(2) | 第二外科学 高 木 和 俊 |
| | | 16 | 火 | 2 | 大腸ポリポースの治療 | 第一外科学 井 原 啓 佑 |
| | | 16 | 火 | 3 | イレウスの診断と治療 | 第一外科学 中 川 正 敏 |
| | | 23 | 火 | 1 | 腹膜疾患(ヘルニア) | 第一外科学 中 川 正 敏 |
| 実 | | 23 | 火 | 2 | 病理実習(5) 腸疾患の病理(非腫瘍性疾患) | 病理診断学 石 田 和 之 |
| 実 | | 23 | 火 | 3 | 病理実習(6) 腸疾患の病理(腫瘍性疾患) | 病理診断学 黒 田 一 |

注) 上表のうち、左端の「各 I」「実」と表示されたコマは、それぞれ別科目「病理学各論 I」、「病理学各論実習」の授業であるが、科目構成上「消化器」の授業とともに表記されている。

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

出席についてはチェックを行い、出席率は受験資格の要件とする。評価については、各担当領域の教員の出題による試験あるいはレポートにより行うが、最終的評価は科目責任者が行う。

VII. 教科書・参考書・A V 資料

教科書は指定しない。

参考書：内科学 第11版 朝倉書店（内消）

Cecil TEXTBOOK OF MEDICINE, 20th edition, Saunders（内消）

Harrison's Principles of Internal Medicine, 16th edition, McGraw-Hill（内消）

Diseases of the Liver and Biliary System, Sheila Sherlock and James Dooley, 9th edition, Blackwell Scientific Publications（内消）

肝細胞の病理 内田俊和, HBJ出版局（健康管理）

肝病理アトラス－針生検を主とした 横山 武, 文光堂（健康管理）

標準病理学 第5版 医学書院

新臨床内科学 第9版 医学書院

VIII. 質問への対応方法

原則として①講義時に質問を受け付ける。

②後で質問がある場合はアポイントを取ること（原則として秘書を通じて）

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

| ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） | | |
|--------------------------|--|---|
| 医学知識 | 人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。 | ◎ |
| | 種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。 | ○ |
| 臨床能力 | 卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。 | |
| | 医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。 | |
| プロフェッショナリズム | 医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。 | |
| | 医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。 | |
| 能動的学修能力 | 医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。 | |
| | 書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。 | ○ |
| リサーチ・マインド | 最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。 | |
| | 自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。 | |
| 社会的視野 | 保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。 | |
| | 医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。 | |
| 人間性 | 医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。 | |
| | 多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。 | |

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

フィードバックとして試験問題の解答に関する解説を行います。
質問事項に対して随時対応します。

XI. 求められる事前学習，事後学習

教科書等を用いて，各授業内容のシラバスに記載された項目についての事前学習は推奨される。
特に，疾患名や用語について理解しておくこと。
予習時間としては各講義毎に30分ほどが良いと考える。

XII. コアカリ記号・番号

A-2-1), A-2-2), C-2-2), C-4, D-7, E-2, E-3, E-4, E-5, F-1-1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) 10) 11) 12) 13) 16) 18) 19) 20) 21) 22) 23) 24) 25) 26) 27), F-2-1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) 8) 9) 11) 12) 13) 16)